

研究推進ニュースレター



東京未来大学
研究推進委員会発行
2015年2月18日発行

ご挨拶

このたび、研究推進委員会では「研究推進ニュースレター」を年に2回ほど発行する運びとなりました。紙面を通して大学内の研究の状況を皆様と共有しつつ、東京未来大学の研究環境をより一層向上させるための情報交換ができればと考えております。当面は電子版として発行して参りますが、お気づきの点、ご意見などは研究推進委員会宛にご連絡下さい。

2014年度研究推進委員会委員長 竹内貞一

研究を踏まえた教育の展開、そして大学づくり

大学人として決まった枠型はありませんが、誰もが教育を受け、自分なりの研究を深め、その成果を上げてきた歴史を持っています。

大学の教育は既存の教科書の知識を学生に伝達するだけのものではありません。

正解が簡単には見つからない課題に今後学生がどう立ち向かい、解決していくのかに資する「考え方」を錬磨し、工夫すること自体に情熱を沸き立たせることを促すことにあると考えます。

そのためにも、研究する姿を大学人たる教職員、学生に示し、さらには社会に活かしていきましょう。それはわれわれの責務でもあるのです。

学長 大坊郁夫

科研費ニュース

平成27年度の本学の日本学術振興会科学研究費研究計画調書の申請状況（提出件数）は以下の通りです。

研究種目	件数 (H27年度)	H26年度(参考)
基盤研究(B)一般	3件	1件
基盤研究(B)海外学術調査	1件	1件
基盤研究(C)一般	6件	7件
基盤研究(C)特設分野研究	1件	1件
挑戦的萌芽研究	6件	7件
若手研究(B)	6件	7件
合計	23件【経費総額 141,268,000】	24件【経費総計 129,847,000】



H26年度と比較すると、件数についてはほぼ同数程度となっています。経費総額については、H27年度は基礎研究(B)が増えたため、若干の増額となっています。

外部資金等公募情報 -学会における研究助成の紹介-

◆日本心理学会

心理学に関わる研究活動を支援するために、研究会への助成を行っています。心理学を専門とする者計10名以上が集まって申請し、承認されると「公益社団法人日本心理学会XX研究会」として活動することができます。

研究会には次のような条件や特典などがあります。

- 募集は年1回行ないます。所定の申請期間内に、申請書、および研究会参加者名簿を日本心理学会事務局までご提出ください。

- 研究会の会員が全員、日本心理学会の会員である必要はありません。
- 助成金額は10万円以内です。使用目的としては、会場費、講師謝礼ならびに交通費、資料制作・印刷費に限ります。
- 年1回以上の公開の研究集会を開催してください。大会時のシンポジウムでもかまいません。
- 年度末には、成果報告書、会計報告書、助成金額の使用に伴う領収書の提出が必要です。
- 助成期間は当年度の4月1日～3月31日です。翌年度も継続して研究会への助成を希望される場合には、研究集会等助成規程に基づき、新たに研究会申請書および研究会名簿をご提出ください。

☞ 2014年度締切（参考 2015年度締切は未定）：2014年5月30日(金)

（日本心理学会 HP より <http://www.psych.or.jp/study/top.html>）

◆日本コミュニティ心理学会 若手学会員研究・実践奨励賞

1. 研究助成の趣旨

若手学会員における研究・実践活動の促進向上を図るため。

2. 助成の対象

本学会員であり、満40歳未満の者またはその要件を満たす研究グループとする。

3. 応募方法および奨励金給付額

所定の書式による研究・実践活動奨励金給付申請及び所定の専攻手続きを経て、選考された研究・実践活動1件に対し学会は10万円の奨励金給付を行う。

4. 研究・実践活動の期間

2年間。給付を受けた日から2年以内に終了し、その後すみやかに、その成果を公表しなければならない。

5. 申請期間

毎年、4月1日から4月30日までとする。

（日本コミュニティ心理学会若手学会員研究・実践奨励賞規程より <http://jscp1998.jp/annai/wakate.html>）

研究紹介

このコーナーでは、東京未来大学の先生方の研究について、インタビュー形式でご紹介していきたいと思えます。今回は、本年度、科学研究費の若手研究Bに採択されたモチベーション行動科学部の小林寛子先生にお話を伺いました。

Q（今回採択された）研究のテーマについて教えてください。また、助成を取られての主な使い道、計画などをお教え下さい。

私は教育心理学・認知心理学を専門とし、教授法や学習プロセスの研究をしています。今回は、学習者が持つ誤った考えを修正していくプロセスにおいて、言語活動は有効なのか、また、有効である理由やより有効な言語活動のあり方を検討する研究計画を立て、科研に応募しました。学習プロセスを捉えるために撮影や録音を行いますのでその機材を揃えたり、得られたデータを文字化したりすることに研究費を使う予定です。

Q 研究計画調書作成にあたってご苦労された点、工夫した、アドバイスなどありましたらお願いします。

教育心理学は、学問としての専門性を高めるのみならず、教育実践と直接関わってその改善に寄与することも目的としています。ですので、研究としての意義だけでなく教育実践上の意義も語ることも、また、教育実践と関わって研究していくためのネットワークを構築して、その実績を研究計画調書に書くことを心がけました。

Q 研究の進捗はいかがですか？また、今後の展望についてお聞かせ下さい。

今のところ、研究計画書通りに進んでいます。来年度以降は、実践研究も増えてくるので、より一層精進していきたいと思えます。

小林寛子先生、ありがとうございました！

